

## 市長に意見書を提出 ～消火栓使用の在り方と有効活用について～

地域協議会は、令和 7 年 1 月 15 日付で、自主的審議事項として審議してきた「消火栓使用の在り方と有効活用について」市長に意見書を提出しました。提出に至る経過は次のとおりです。

○令和 6 年 7 月 18 日の第 3 回吉川区地域協議会において、山岸会長から「消防団員か消防署員でなければ消火栓の使用が認められていないようだ。どうしたら火災の被害を最小限にできるか、担当課の意見を聞きたい。」との発言があり、続いて薄波副会長から原之町町内会で糸魚川市へ市民の消火栓使用の実態視察に行ったことに関して報告がありました。

○9 月 19 日の第 4 回地域協議会において、岩崎危機管理課長から消火栓の取扱いについて説明を受けました。要旨は次のとおりです。

- ・市民の消火栓利用は遠慮してほしい。理由は、①消防団のような防火衣やヘルメットを着用していないと危険である、②日頃から訓練をしていないと危険である、③消防団は方面隊長、分団長、部長、団員と指揮命令系統の中で動いているため統率が取れない中での消火活動は危険であることの 3 つです。
- ・一般市民は消火器での消火にとどめていただき、天井まで火が届いたら、初期消火の範囲を超えているので、119 番通報と避難誘導を優先していただきたい。

※詳細については上越市公式ホームページ「令和 6 年度第 4 回吉川区地域協議会会議録」をご覧ください。

○11 月 21 日開催の第 6 回地域協議会で自主的審議事項として取り上げることを決定

○12 月 19 日開催の第 7 回地域協議会で「自主的審議事項に関する通知票」と意見書案について協議

○令和 7 年 1 月 14 日意見書修正案の内容を検討し意見書を決定

○翌 1 月 15 日「消火栓使用の在り方と有効活用について」市長に意見書を提出しました。

### 【以下は意見書の内容】

日頃より市民の安全・安心の確保並びに生活向上のため、市政運営に鋭意取り組まれていることに感謝を申し上げます。

市内では毎年多くの火災が発生し、建物のみならず人命も失われているところです。令和 6 年には住宅密集地における複数建物火災が 3 件も発生し甚大な被害が出ました。また、平成 28 年 12 月の糸魚川市の大火も私たちの記憶に新しいところです。

吉川区においても原之町町内会など住宅が密集する地区があり、もし自分たちの地区

で起きたらと地域住民は不安を募らせており、原之町町内会では、市民の消火栓使用について学ぶため、糸魚川市への視察を行っています。また、住民の不安の声は、住宅密集地域だけでなく山間部など消防団員が集まりにくい地域においてもあります。

そのようなことから、吉川区地域協議会では消火栓使用の在り方と有効活用について協議してまいりました。吉川区では合併前から防災訓練時などに消火栓を使った訓練を適宜行い、市民でも操作できるようにしていました。また、市民の消火栓使用については、市議会においても何度か議論されています。現在、市では消火栓の使用については、消防署や消防団に任せて一般市民は使用しないようにと説明しています。しかしながら、火災発生時に消防車が到着するまで何もしないのではなく、一般市民が消火栓を使い消火活動を行うことが有効であり、使用を認めていただきたいとの意見が多数ありました。

このことから、次のとおり意見を申し上げます。

- 十分な安全教育を行う事を条件に、火災発生時には消防車が到着するまでの間、一般市民または自主防災組織及び消防団OBに消火栓を使用し消火活動を行うことを認めていただきたい。
- 安全性を高めるため、使用するホースは糸魚川市と同様、一般市民が容易に操作できる40ミリ口径のホースを、筒先は無反動タイプを配備していただきたい。
- 当区においては、住宅密集地域に限らず、消防署から遠い地域があることを考慮していただきたい。

これに対し、令和7年2月12日市長より回答がありました。

【以下は意見書に対する回答の内容】

火災発生時における消火活動は、日頃から訓練の積み重ねが重要となるほか、防火衣等の安全装備、さらには消防資機材の定期点検など適切な維持管理が必要となり、それらが全て整わなければ、安全かつ迅速に消火活動を実行することはできません。

こうした考えの下、市では、消火栓を使用した消火活動は、常備消防や消防団が担う方針としており、過去の消防経験の有無にかかわらず、一般市民や自主防災組織等による消火活動は、重大な人身事故等が発生する危険性が高く、適当ではないと認識しております。

加えて、仮に火災現場で40ミリ口径の消防ホースや無反動の管槍を使用した場合であっても、安全性の確保が困難なことから、一般市民等による消火活動のためにこれらの資機材を配備する考えはありません。

一般市民の皆さんからは、引き続き火災予防に努めていただくとともに、万が一火災が発生した場合は、何より自らの身の安全を確保したうえで、速やかな119番通報や消火器等による初期消火、避難誘導などの実践を念頭に置き、火災に備えていただきたいと考えています。

また、上越地域消防局では、令和2年3月に高機能消防指令センターを整備し、速やかに災害点を特定して迅速な出動指令が出せる体制を整えるなど、火災現場等への到着時間の短縮に努めております。

市では、引き続き、市民の安全・安心な暮らしを守るため、町内会や消防団、上越地域消防局と連携し、官民一体となって防火・消防対策の取組を推進してまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

# ◆「上越市及び吉川区の人口動態」について上越市創造行政研究所から説明を受けました



○吉川区地域協議会では、自主的審議事項として「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」に取り組んでいます。

令和7年1月23日、第8回吉川区地域協議会で上越市創造行政研究所から「上越市及び吉川区の人口動態」について説明を受けました。主な内容は次のとおりです。

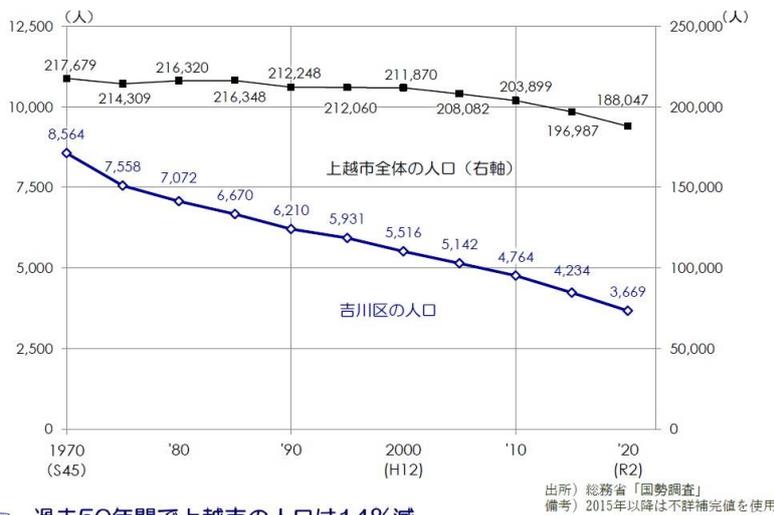
○上越市の人口は、1970年(昭和45年)から2020年(令和2年)の過去50年間で14%減少しました。特に東京圏に対する転出超過が続いています。この間、子どもの数は6割近く減少し、高齢者の数は4倍近く増加しました。

○吉川区の人口は、1970年から2020年の過去50年間で57%減少しました。また、1990年(平成2年)から2020年(令和2年)の過去30年間で人口は41%減少し、この間、子どもの数は7割以上減少、高齢化率は23.1%増加しました。

○特徴として「10代後半～20代前半の人口減が大きい」、「関東や新潟市への転出超過が顕著。また、市内でも他の区への転出が多くみられる。」となっています。

○仮にこのままのペースで人口推移が進むと、吉川区の人口は約30年後の2050年には6割減少し、小学生・中学

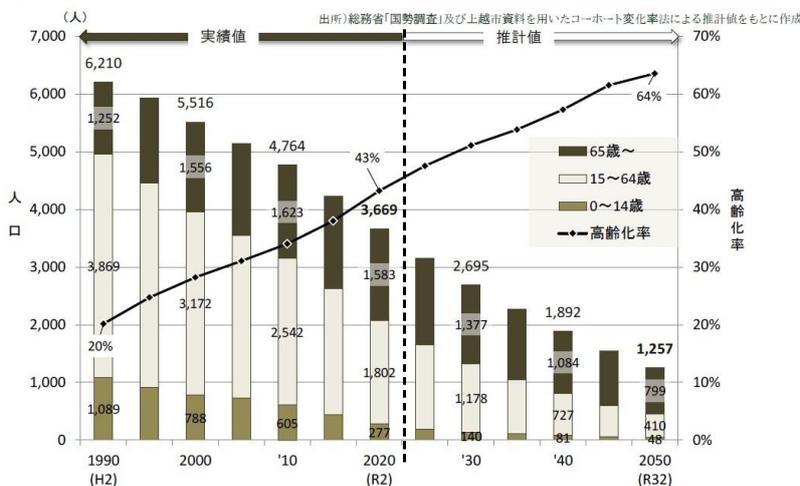
## 吉川区の人口の推移 (1970~2020)



☞ 過去50年間で上越市の人口は14%減  
吉川区の人口は57%減

## 将来推計人口 (吉川区 1990~2050推計)

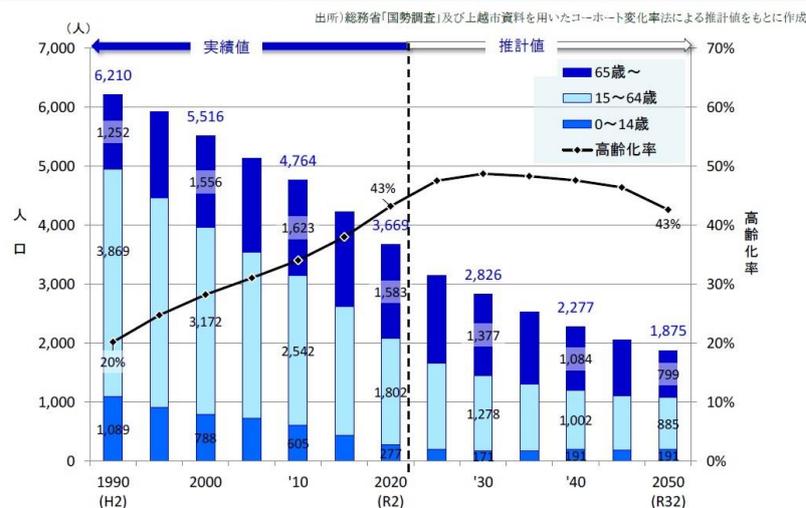
シナリオ1 仮に直近の人口動態が続いた場合



☞ このままのペースで進むと、30年後には6割減

## 将来推計人口（吉川区 1990～2050推計）

シナリオ2 持続可能な状態を目指した場合



☞ 若年層の転入増（転出減）をプラス25人実現できれば  
30年後には5割弱の減少でとどまり、人口はいずれ安定する。

生ともに8割減少すると見込まれます。

○しかし、若年層の転入増（転出減）をプラス25人実現できれば、5割弱の減少でとどまり、人口はいずれ安定し、小学生・中学生の人口も安定します。  
○吉川区地域協議会では、このデータを参考に、引き続きこの問題について協議してまいります。

## 令和6年度吉川区地域協議会活動状況

※令和6年12月から  
令和7年2月末日現在

- 12月19日… 第7回地域協議会（自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」）
- 1月23日… 第8回地域協議会（自主的審議事項「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」「消火栓使用の在り方と有効活用について」、協議事項「頸北地区地域協議会委員合同研修会の振り返りについて」）
- 2月20日… 第9回地域協議会（自主的審議事項「消火栓使用の在り方と有効活用について」「若者の移住定住につながる魅力的な子育て支援策について」、報告事項「意見書に対する回答について」「地域独自の予算事業の一覧について」）



### 【編集後記】

地域協議会だより第52号をお届けします。  
当協議会ではご覧のとおり、「地域活性化、魅力ある地域づくり」「今と未来に向け住みやすい地域づくり」にはどうすべきか協議しています。是非アイデアやご意見を事務局、協議会委員にお寄せください。地域協議会は、吉川のこれからを議論する場です。吉川の未来を見つけるためにも、ぜひ傍聴においでください！

さて、この第52号をご覧になっているころ雪の具合はどんなでしょうか。今年は大雪で通勤通学や除雪作業と大変だったですね。お疲れ様です。春が近づき暖かくなったら上越市内の桜の名所を散策するのもいいと思います。区内では尾神のしだれ桜が有名ですが、長峰池周辺もきれいです。長峰城址には雪割草がたくさん咲いています。例年3月下旬が見頃です。

第52号たより編集委員 田邊、新部、橋爪